

採 点 講 評

英 語

総 評

高2アドバンスト英語では、リスニング、語句整序、和文英訳、長文読解、自由英作文といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に自由英作文や和文英訳、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

① リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

問題A

(3) 正答の選択肢c内のdevelopmental problemsがそのままの表現で放送されていたためか、比較的良好にできていた。反対に、正答の選択肢が放送内容を別の表現で言い換えている場合に、正答率が下がる傾向にあるようだ。単語だけで判断せず、内容を理解した上で判断しよう。

問題B

(6) どちらの空所も放送された語で埋めることができるため、空所補充型の要約問題として難易度は高くないのだが、白答が目立った。今回のように、意見交換をする対話文の聞き取りでは、双方で意見が一致しているポイントはどこか、また意見が分かれているポイントはどこか、それぞれ整理しながら聞くようにしよう。また、前後のつながりから見て不適切な品詞を書く誤答も散見された。空所を含む文の構造をきちんと確認し、文法的に適切な品詞で解答することを心がけよう。

② 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で、日本語も与えられていない。与えられた語句から文を作り上げることができるかどうか

かを見た。

(1) suchを見ると反射的にsuch a ~の形で考えてしまいがちだが、suchを使う表現はいくつかある。なじみのある表現から発想するのはよいが、すべての選択肢を並べたところで、文法的に成立しているか、また前後とつなげて読んで意味が通じるかをきちんと確認しよう。

(2) 文頭にthe disappointmentを置いた誤答が多く見られた。カッコを含む文の後半で、the world以下が1つの節になっていることに注意しよう。また、カッコ内のpresentの使い方に迷ったような解答も多く見られた。be present at ~ (~に出席して) という形容詞としての用法は和文英訳や自由英作文でも頻出なのでぜひ覚えておきたい。

(3) 空所末尾のno matter what … (たとえ何を…しようとも) の表現はできているが、冒頭のhow come … (どうして…するのか) ができていないものが多かった。

(4) 空所直前のshould notに続けてshould not have to leftとした誤答が多く見られた。should not have done (…しないほうがよかったのに (実際はした)) は仮定法との関連でも問われやすい表現なので、整理しておこう。

(5) it remains to be seenの形が何となくできているのに、カッコのあとと文法的につながらない解答が散見された。

問題B 和文英訳

和文英訳は、訳しやすい日本語に直してから英訳すること、できるだけ基本語を用いて簡潔に表現することを意識して取り組みたい。減点部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

① 「言葉」が「『もうバイオリンは弾けないね』という」と「不注意に思える」の2つの要素で説明されているため、文構造に迷った解答が多く見られた。表し方は何通りか考えられるが、模範解答や別解で文構造を確認しておこう。最も気になったのは、「もう」をyetとする誤訳。yetは「(すでに) もう; まだ」の意味なので、文脈に合わない。問題文の「もう」は「もう今後は; もはや」の意味なので、anymoreが適切である。また、「～のやる気に火をつける」は「～に…する意欲を起こさせる」と考えてmotivate ~ to doやencourage ~ to doを使うと書きやすい。make ~ to doは「～に (無理矢理)

…させる」の意味で、今回のように「意欲が起きた」という状況の訳としては不適切である。

⑥「逆境に打ち勝つ」で win を使った解答が多かったが、win は win the game (試合に勝つ) のように、目的語には「試合・競技」または「賞品」をとるため、ここでは不適切。「困難」などを目的語にとる動詞表現としては overcome や get over, fight against などを用いるとよい。

③ 長文読解

砂の需要の急増とそれによる影響について述べた英文。身の周りにも普通に存在する「砂」を資源として意識することは少ないので、意外な内容だと感じた人も多かったのではないだろうか。英文全体として難しい表現は少ないが、下線部で出題されているように意味を取りづらい表現があるので、前後の文脈を考えながら読み進める力が問われた。

(1) run out of ~ (~が不足する) の表現を知らない場合でも、第1段落第1文の「ほとんどどこにでも砂があるように見える」という内容と、下線部を含む文の文頭の But、下線部以降の「砂は最も多く消費される資源である」という内容から、ある程度推測することができるだろう。

(2) d という誤答が多かった。下線部のあとの説明に too smooth and round to be used (使えないほど滑らかで丸い) とあるので、砂漠の砂の問題点は量ではなく質であるという点に注意しよう。

④ 長文読解

第3段落以降のキーワードである、altruism (利他主義) という単語が難しく、読解に困難を覚えた人もいるかもしれない。ダッシュのあとの説明や続く具体例から、これがどのようなものか、なるべく早い段階でイメージできるとよかっただろう。

(1) 短いですが、文法的に重要な要素がたくさん詰まった文。無生物主語の訳し方、wouldn't が仮定法として使われていること、simply が「単に」ではなく、「絶対に…(ない)」という意味であること、などをしっかり復習しておこう。

(2) 英文構造が複雑な文だった。解説を読んで、構造をよく確認しておこう。答案では、when it comes to ~ をうまく訳せていないものが多く見られた。基本的な表現なので、しっかり押さえておくこと。

(4) 下線部の直前の In contrast と下線部の in this way の読み取りがポイント。in contrast (対照的に) という言葉が出てきたら、「何」と「何」が対照的な関係にあるのか、問題になっていないときでも考える習慣をつけたい。

(5) かなりの難問となったようだ。該当箇所が For

example で始まる次の段落であることに気づけた人がそもそも少ない。(4) で取り上げた in contrast もだが、このような論理展開を示す語句に注目して読む訓練を積むこと。該当箇所に含まれる vice versa (逆もまた同じ) は難しい表現だったと思うが、これを機にしっかりと覚えてほしい。

⑤ 自由英作文

文法・語彙と内容・構成の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(35語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……15点

誤りの数に応じて、15点を越えない範囲で減点している。

○内容・構成点 ……15点

内容に応じて、15点(減点なし)、10点(-5点)、5点(-10点)、0点(-15点)のいずれかの点数をつけている。以下のような答案は内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由が説得力に欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの
- ・同じ内容の繰り返しになっているもの

今回のテーマは、すべての高校で英語以外の言語を選択できるようにすべき、という意見に対する賛否を問うものだった。予想に反し、圧倒的に「反対」の答案が多く、「英語がまだ得意でない人が多い」「英語が一番役に立つ」という理由が挙げられていた。「賛成」の答案では「日本に多くの外国人が住むようになっているが英語が話せない人も多い」「海外で仕事をするのに中国語など英語以外の言語も必要」といった理由がよく見られた。また、賛成している答案でも「しかし、英語も大切だから他の授業を減らして2つの言語の授業が必要」という意見もあった。このような答案は70~80語という制限語数を生かし、反対意見も組み込み、うまくまとめていると言える。意見を述べる英作文では、自分とは異なる意見の人に対して説得するという視点を持って取り組みたい。理由を述べる際には、具体例やエピソードを挙げるなどして、読み手が納得できるような根拠を示すように心がけよう。

総 評

今回は以下の分野から出題した。

「対数関数」「高次方程式」「三角関数」

「1次不定方程式」「場合の数・確率」

「微分積分」「ベクトル」「図形と方程式」「数列」

レベルとしては、易しいものから難しいものまで、幅広く出題した。標準レベルのものまでは全員に正解してほしかったが、残念ながら出来がよくない問題もあった。間違えた問題については、「解答」や「解説」を参考にしっかり復習しておこう。

また、答案の作り方についても意識しておくとうい。せっかくわかっているでも、理解していることが採点者に伝わらないと点数はもらえない。「解答」の記述も参考に、どのように書けばよいか、どの程度書けばよいかなどについて確認しておきたい。

問題別講評

① 小問集合

(1) アでは、真数条件を考慮せず $x \leq 0$, $2 \leq x$ としたものが目立った。また、イでは、真数条件や底の条件を考慮しなかったと思われるもの、底による場合分けをしなかったと思われるものなど、さまざまな誤答が見られた。対数関数の扱い方をよく復習しておこう。

(2) 比較的できていたが、ウでは、 $\theta = -\frac{\pi}{2}$, $\frac{\pi}{2}$ を代入しただけの $-\sqrt{3} \leq t \leq \sqrt{3}$ という誤答がちらほら見られた。間違えた人は、関数の最大値・最小値を求める際の考え方をよく復習しておこう。

(3) できていた。

(4) クはできていたが、ケではさまざまな誤答が見られた。条件付き確率の考え方を復習しておこう。

② 微分積分

3次方程式の解のとり得る値の範囲に関する問題。

(1) できていたが、微分したあと増減表をかかずにいきなり答を書いているものがあつた。極値の求め方は、微分積分において最も基本となる項目である。減点されていた人は、手順をよく再確認しておこう。

(2) (i) できていた。

(ii) 根拠の不十分なものが非常に多かった。グラフより $-1 < \beta < 3$, $3 < \gamma < 5$ を求め、そこから $4 < \beta + \gamma < 6$ と

しているものがあつたが、これだけでは $2 < \beta + \gamma < 8$ しかいえない。「解答」のように解と係数の関係を利用する方法をしっかりと確認しておこう。

③ ベクトル

四面体を題材にしたベクトルの問題。

(1) 辺 OB を 6 : 1 に内分する点を E としたものが多く、想定よりもできていなかった。問題文はよく読むよう心がけよう。

(2) $OP \perp FP$ に着目し、内積を利用するという方針は立てられているものの、その計算の途中でミスしているものが多かった。無理に途中の計算を省略せず、丁寧に計算してほしい。

(3) 白答がほとんどだった。(2)と同様に $OQ \perp FQ$ に着目して内積を利用する「解答」の方法のほか、方べきの定理を利用する「解説 C」のような解答も可能である。できなかった人はもちろん、できた人も様々な解法を学び取ってほしい。

④ 図形と方程式

2直線の交点の軌跡に関する問題。

(1) 問題文に従って、点の座標や直線の式を順に求めていけば正解に到達できる問題であつたが、想定よりもできていなかった。図形と方程式の問題では、丁寧に図をかき、慌てずに1つ1つの条件を式に表していくことが重要であることを肝に銘じてほしい。

(2) 白答が多かった。着手できていたものの多くは点 H の座標を求める方針（「解説 C」）をとっていたが、本問においてはやや遠回りである。「解答」のように、点 H の x 座標、 y 座標がみたす式から p を消去するという方針を押さえてほしい。

⑤ 数列

数列の和と一般項に関する問題。

(1) できていた。

(2) $S_n - S_{n-1}$ についてはできていたが、 $T_n - T_{n-1}$ についてはあまりできていなかった。複数の Σ を含む式を整理する際は、適宜、和を書き下して考えるとうい。

(3) 「(2)の結果を利用するにはどうすればよいか」というところから突破口を開いてほしかったが、あまりできていなかった。

(4) できていなかった。階差数列を利用して数列の一般項を求めるという発想を確認しておいてほしい。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

① (40点)

いずれも答に

- (1) ア：4点, イ：6点 10点
- (2) ウ：3点, エ：3点, オ：4点 10点
- (3) カ：4点, キ：6点 10点
- (4) ク：4点, ケ：6点 10点

② (30点)

(1) (8点)

- $f(x)$ を微分して 1点
- $f(x)$ の増減を調べて 3点
- 答に 4点

(2) (i) (10点)

- $y=f(x)$ のグラフをかいて 4点
- 答に 6点

(ii) (12点)

- $\beta+\gamma=3-\alpha$ を示して 3点
- $y=f(x)$ と $y=0$ の共有点の x 座標を求めて 3点
- α のとり得る値の範囲を求めて 3点
- 答に 3点

③ (40点)

(1) (8点)

- \overrightarrow{OF} を実数 k と \vec{a}, \vec{b} を用いて表して 2点
- k を求める式に 3点
- 答に 3点

(2) (12点)

- \overrightarrow{OP} を実数 l と \vec{c} を用いて表して 1点
- l を求める式に 8点
- 答に 3点

(3) (20点)

- \overrightarrow{OQ} を実数 s と $\overrightarrow{OF}, \vec{c}$ を用いて表して 5点
- s を求める式に 8点
- s の値を求めて 4点
- 答に 3点

④ (40点)

(1) (15点)

- 点 P の座標を p を用いて表して 2点
- 点 P' の座標を p を用いて表して 2点
- 直線 l の傾きを p を用いて表して 5点
- 答に 6点

(2) (25点)

- 点 H が直線 l 上にあることを式で表して 3点
- 点 H が直線 OP' 上にあることを式で表して 3点
- 軌跡の方程式を求めて 6点
- 軌跡の限界を求めて 11点
- 答に 2点

⑤ (50点)

(1) (8点)

- 答に 8点

(2) (12点)

- $S_n - S_{n-1}$ を求めて (答に) 5点
- $T_n - T_{n-1}$ を求めて (答に) 7点

(3) (15点)

- (2) の結果より
- $(S_{n+1} - T_{n+1}) - (S_n - T_n)$ を求めて 5点
- $S_n - T_n = (n-1)^3$ より
- $(S_{n+1} - T_{n+1}) - (S_n - T_n)$ を求めて 5点
- 答に 5点

(4) (15点)

- $a_{n+1} - a_n$ を求めて 5点
- $n \geq 3$ のとき, a_n を求めて (答に) 8点
- $n=2$ のときも成り立つことを確認して 2点

総評

模試の復習をするときには、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を確認したうえで、再度問題に取り組みようしよう。

問題別講評・採点基準

一 評論

(一) (b)「常調」「情長」などと書き誤るもの、(c)「隔」の字を書き誤るものが散見された。いずれも基本的な語なので、しっかりと復習しておこう。

(二)〔採点基準〕

〃b 何が正しいかが a 統計の取りやすい事象の数値だけで b 判断され、
c 数値になり得ない異例のものや数値を度外視できる瞬間のなかの、d 生にとつて重要なものが無視されてしまうから。〃を押さえて 12点
※ a部3点・b部3点・c部3点・d部3点

〔統計の取りやすい事象だけを選択対象としてはならない〕という要素を中心にまとめている答案が多かった。理由説明であることを踏まえると、なぜ〔統計の取りやすい事象の数値〕だけを対象にはならないか、c部・d部を説明に含めることが重要となる。字数設定・設問条件を踏まえて、解答に含めるべき要素を整理しよう。

(三) 誤答は(e)が目立った。正解選択肢と比較すると、「暴力に匹敵する知」という表現のニュアンスを表し切れておらず不適切となる。

(四)〔採点基準〕

〃a 迷惑のかかる行為に対し b どこまで個人の自由が許されるか、c 何が法律や道徳で規制されてよいかについての d 各人の理性的な判断による基準か

ら、e 健康に害があるかどうかについての f 医師の裁定による基準へと変化した。〃を押さえて 15点

※ a部3点・b部2点・c部2点・d部3点・e部2点・f部3点

〔各人の理性による判断→医師による判断〕という「基準の変化」の大枠は押さえられている答案が多かったが、各要素をすべて押さえられているものは少なかった。傍線部説明としては、「正義の基準」の内容について、何に對しどのような判断をする際の基準であるか、a～c部の要素も漏れなく説明する必要がある。

(五) 誤答は分散したが、Ⅲ・Ⅳがやや目立った。直前・直後の内容との結びつきを確認しておこう。

(六) 誤答は(w)が目立った。「適切でないもの」を選ぶことを踏まえ、選択肢を一つずつ丁寧に本文と突き合わせて検討しよう。

二 小説

(一) (a)「自明の理」は、比較的よくできていた。

(b) 誤答として、(r)「自身のした悪事を告白すること」を選んだ人がいた。「釈」は〔解き明かす〕の意。ここは〔亮人の誤解を解きほぐす〕という趣旨の選択肢を選びたい。

(c) 誤答は、(r)「自身が拠点を置く場所」が多かった。傍線部にこの意味を当てはめても文意は通りそうだが、「端緒」は〔物事の起こるきっかけ・手がかり・糸口〕の意。語句自体の意味と文脈との両方に注意して解答しよう。

(二)〔採点基準〕

〃a 石帯の玉を盗み、b 得た錢で病の父を医師に診せるため。〃を押さえて 6点
※ a部2点・b部4点

全体的に、解答の方向性は正しくとらえられていた。ただし、〔石帯の玉を盗む〕という直接の目的と、〔それによりお金を得て、父を医師に診てもら

う) という本来の目的との、一方しか押さえていない答案も多かった。

(三)〔採点基準〕

※ a 自分が飲んだ毒酒は、b 南島について何一つ理解せずに、c それを日本のための架け橋にしようとした (a) 自身の愚かさに対する報いであり、d 娘に罪はないと考えたから。 を押さえて 12点

※ a 部3点・ b 部3点・ c 部3点・ d 部3点

b の要素を押さえていた人は多かった。 c は、押さえている人とそうでない人とに分かれてしまった。 a は、まとめ方が難しかったと思われる、中途半端な押さえ方になっている人が目についた。 d を押さえている人は少なかった。

(四) よくできていた。誤答は(i)が少し目についた。

(五)〔採点基準〕

※ あえて a 石牌ではなく数年で朽ちる木牌を築くことで、 b 建て替えのために往来する船や人を増やし、 c 南海の島々を長年かけて富ませようとしたということ。 を押さえて 12点

※ a 部4点・ b 部4点・ c 部4点

解答の方向性が正しい答案が多かった一方で、空欄のままの答案も少し目についた。よく書けている答案の中にも、b (建て替えのために) という目的の説明や、c (長い時間をかけて(富ませる)) という要素を欠いているために、細かく減点されてしまう答案が多かった。

(六) まずまずの出来。(ウ)・(エ)を選んでいた人の割合は、だいたい同じくらいだった。誤答は(ア)・(イ)・(オ)のそれぞれに同程度に散らばった。

三 古文

(一) ①「たまへ／らむ」のように単語に分けて、「らむ」を「現在推量の助動詞」とする誤答が多かった。

②①と同じく、正しく単語に分けられない答案が目についた。比較的多かったのは、「見／せ／まほしき」のように単語に分けて、「せ」を使役の助動詞とする誤答である。「解説」を読んで復習してほしい。

たのは、「見／せ／まほしき」のように単語に分けて、「せ」を使役の助動詞とする誤答である。「解説」を読んで復習してほしい。

(二) (x) 誤答は(ア)・(イ)が多かった。「いかに」には(どのように)の意もあるが、(ア)・(イ)とも、それに続く解釈が不自然である。ここは(どんなにか(美しいだろう)) (さぞかし(見事だろう))の意で、程度を強調している。

(y) 誤答は(イ)・(ウ)・(エ)に分散した。

(z) 誤答は(ア)・(ウ)が多かった。ここはふすま障子の穴から浮舟の姿を見ようと、その妨げになりそうな几帳などの位置を変えようとしている場面である。

(三)〔採点基準〕

※ a 浮舟が尼になったので、(c)ここには b あなたが c 共寝をする相手もないということ。 を押さえて 8点

※ a 部4点・ b 部1点・ c 部3点

「どういふことを言おうとしているのか」という問いなので、(木枯が吹いた山のみもとには……)などの直訳のような解答では得点できない。「浮舟が出家したことを踏まえて」という設問文の内容をヒントに考えたい。

(四) (a) 誤答は(ウ)が目立った。「たてまつり」は謙讓語で、動作を受ける人を敬うから、(ウ)では中将自身が「心かけたはまん男(中将)」に「見」られることになってしまう。

(b) (四)の中では、比較的正答率が高かった。

(c) 誤答は(ウ)が目立った。(a)と同じく、「きこえ」は謙讓語だから、「教へ(教ふ)」という動作を受ける人に対する敬意になる。

(d) (四)の中では、もつとも正答率が低かった。

(五) (i)〔採点基準〕

※ a 出家前の普通の姿の時は b 気兼ねなさること c あつただろう d が を押さえて 7点

※ a 部3点・ b 部2点・ c 部1点・ d 部1点

(ii)〔採点基準〕

※ a 部1点・b 部1点・c 部1点・d 部1点・e 部1点
お話し申し上げることができそう
——7点

※ a 部1点・b 部2点・c 部2点・d 部1点・e 部1点

(i)・(ii)とも、空欄のままの答案が散見された。状況がよくわからない場合でも、傍線部の単語を丁寧に現代語に置き換えていけば、何点か部分点をもらえることもある。最後まであきらめずに解答してほしい。

(六) 誤答はウ)が多かった。「解説」に書いたとおり、少将の尼は目の前にいる(出家後の)浮舟の美しさに心を動かされている。また、中将は、出家した浮舟と話をしたいと、少将の尼に提案している。

四 漢文

(一) (1)の「かつて」はよくできていた。しかし、(2)「およそ」は「ほん」とする誤答が多い。苦し紛れに書いただけだとは思いますが、日本語としてもう少しそれらしい読み方を思いつかなかっただろうか。(3)「ここをもって」は、予想通り「これをもって」と読んだ誤答が多い。

(二) (a) (イ)「結実」とした誤答が多いが、「蕃」にも「衍」にも(実を結ぶ)という意味はない。(b)は(オ)「利用している」としたものが多く、これを機会に「重宝(する)」という言葉を自分のものにしてほしい。(c)も予想通りウ)「困ることなく」とした誤答が多いが、「窮」に(困る)の意味はない。

(三) 正解の「歳不登」が一番多かったものの、それ以外にも「雖歳不・死刑者・終天年・少五穀・海産木・不能免・于薩摩・試種之・薬苑中・蕃薯考」など、実にさまざまな誤答があった。

四 (i)〔採点基準〕

※ a 部1点・b 部2点・c 部2点・d 部2点・e 部1点
未だb 数年ならa)ずしてc 処としてd 種e ざるは無しを押しさえて

——5点

※ a 部各1点

まず、返り点の順序に従って読むことができなければ、スタート地点にも立てない。そこをマスターした上で、「未だ……ず」のような代表的な句形を一通り押さえれば、一応センター試験を受験するスタートラインには立つことができる。そして、上位校を目指すならば「処として」といった慣用表現や「ざるは無し」という二重否定を自分のものにする。さらに多くのライバルに差をつけるためには、「種う」がワ行下二段活用であることに気づいて、「種え」と書き下す。なお、書き下し文では、「すべてひらがなで」といった指示がない限り、助動詞や助詞といった付属語以外の自立語は漢字のまま残すこと。

(ii)〔採点基準〕

※ a 部1点・b 部2点・c 部1点・d 部1点
まだ数年も経たないのに、b どんな場所でもc さつまいもをd 種e (b)ないところをなかつたを押しさえて
——5点

書き下しは文語による日本語訳なので、(i)ができた人は(ii)もできている。まずは書き下し文の音読を繰り返して、漢文の言い回しに慣れてしまいたい。

(五) (ア)は多くの人が押さえられたが、ウ)の代わりにオ)を選んだ人が多い。「如くは莫し」は確かに(一番だ)という意味だが、その上にある「百穀之外(多)くの穀物以外では」という条件が重要。あくまでも穀物(特に米)が優位なのである。もしさつまいもが「他のどんな穀物よりも優れ」ているのであれば、日本中の主食はさつまいもになっているはず。

(六)〔採点基準〕

※ a 部2点・b 部1点・c 部2点・d 部2点・e 部1点
甘藷の栽培法を記述したb 青木のc 『蕃薯考』を出版し、d 種子とともにe 諸国諸島にd 配布したを押しさえて
——8点

※ a 部2点・b 部1点・c 部2点・d 部2点・e 部1点

まずは、本文に三回出てくる「官」が設問にある「政府(幕府)」の意味であることを見抜く。そして、三番目の「官」が主語だと気づけば、この一文が「時の政府(幕府)が取った施策」を述べていると判断できる。